

平成最後の正月



「亥」(勝野 壽雄さん作)



初日の出



荒井公民館門松



沙田神社初詣



小柴町会新年会



平成 31 年 1 月 1 日現在
世帯数 2,835 世帯
男 3,338 人
女 3,466 人
総人口 6,804 人

出来上った餅は、公民館内で、みんなで家庭に持ち帰り飾る鏡餅や切り餅にし、残りは、あんこやきな粉を付けて参加者とスタッフで食べました。

12月23日大庭公民館にて有志による餅つき会が行われました。寺子屋大庭未来塾と名づけられた会は、学校や家庭で体験できなくなった他人とのコミュニケーションの大切さや、マッチや鎌などの使い方や危険性などを子ども達に伝える意図で、1年間を通して地区内で開催されています。

5月に参加者自ら手で植えて育てた餅米をスタッフが蒸し上げ、下屋に置いた臼と杵で最初に大人が米粒をつぶした後、子ども達が交代しながら餅にしました。

大庭町会 餅つき



受付に集まる子どもたち

今年も光子祭も充実した光子祭となりました。各委員会のコーナーは、グループで協力しながら楽しむことができ、ものばかりで、校舎内に楽しそうに笑い声がひびいていました。みんなで楽しめて、姉妹ペアとの仲を深められるすてきな光子祭になったと思います。委員長や委員のみなさんで協力することができてよかったです。

一方で、苦労したのは紙飛行機飛ばしと、サイン集めのサインを書くことです。紙飛行機飛ばしでは、進行の仕方をまちがえてしまうハプニングがあり、一度進行が止まってしまいました。うまく気を利かして進めることができました。サインを書くことは、たくさんの方が集まるので、サインをずっと書き続けたり、順番抜けかしが起ってしま

島立小学校「光子祭」を振りかえって

児童会長 三村 優菜

平成8年に高齢者講座カラオケ教室として始まり、今では月曜カラオケ・木曜カラオケ・男性カラオケ・カラオケ教室と4つのグループが活動しています。講師は発足当初からご指導いただいている南栗町会の上條富子さんです。

芸術文化祭やひろばまつりでの発表をご覧になった方も多いのではないのでしょうか。ひろばのサークルも高齢化が進み、発表の機会も少なくなりました。表の機会も少なく、仲間と集うことを大切にしています。喉も筋肉で出て来ます。声も出していないと出にくくなってしまいます。

声を出すことは、喉や下障りや認知症の予防に効果的です。皆さん仲間になりませんか？お気軽に見学にいらしてください。



大変でしたが、時間内に全員分書くことができました。苦労することもありますが、みんな協力して、楽しくすてきな光子祭となりました。

福祉ひろばで活動する団体・サークル紹介

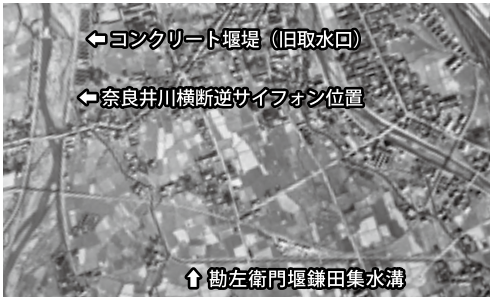
〈カラオケ〉

島立探訪 島立の道と水

「勘左衛門堰 取水の変遷」

地図を眺めたり国道19号を走行中、アルピコ交通(松本電鉄)上高地線跨道橋の南50mを東から西に流れる直線水路の存在に気付いたことはありませんか。流量は少なく排水路にしか見えませんが勘左衛門堰鎌田集水溝と地図に注記されています。島立では有名な勘左衛門堰がなぜ渚地区にもあるのでしょうか。

今回は勘左衛門堰の取水の変遷について記してみます。戦国乱世が終焉し世の中が落ち着いてくると、領主たちは財政確保のため盛んに農地増加に力を注ぎました。水田の増加はそのまま水確保の問題となりました。安曇郡成相組の水田灌漑のため、最初の勘左衛門堰が寛文2年(1662)2月に着手され梓川からの揚水で堰が開削されました。しかし梓川の水量が時期により増減し水不足で失敗してしまいました。対して奈良井川は水量が安定し水温が温かいことなどから二木勘左衛門(松本藩主水野忠直の家臣・成相組代官)は、島内の一部と安曇方面の既設田・開墾田への安定し



▲米軍撮影航空写真(昭和23年11月22日)



▲松本市発行地形図(平成18年測量)

岸の荒井に渡った水を北流し堰堤付近で合流させ水量を増加させました。昭和28年には奈良井川の改修により取水水位

た灌漑目的でこの川に水を求め、貞享2年(1685)荒井村小麦淵から揚水し、蛇原北方、上平瀬、下平瀬を経て梓川を横掘りして横断し飯田村から下鳥羽にかけて開削しました。3月着手の工事は5月には完成し通水、しかし間もなく蛇原で堰が決壊、全て溢水し勘左衛門は責任を感じ切腹してしまいました。工事従事者は敬服し、人家より畳を集め突貫工事で防水し決壊場所を修復しました。当時、堰は通称「成相組の新堰」と呼ばれたが土砂の堆積等と思うように水が流れないところもあり、のちには使われなくなりしました。その後天明元年(1781)に小麦淵から梓川の左岸まで4930mの改修に着手し翌年に完成しました。天明の工事

から20年足らずの寛政9年(1797)には平倉六郎右衛門により改修計画が松本藩に提出され、翌年の大改修で現状に近いものとなりました。堰は梓川の河原に土手を築き横断していたため出水の度に流失と復旧の繰返しでした。この解消のため大正時代に木製底樋の敷設、昭和6年にヒューム管の逆サイフォン工事を行うとともに奈良井川小麦淵の取水口を取水と通水の安全のためコンクリート堰堤に改築しました。さらに昭和10年、穴田川と征矢野川を結ぶ鎌田集水溝(本文冒頭に記載)を建設、扇状地末端に位置する湧水地帯の旧松本村鎌田周辺の排水を取込み征矢野川に合流させ渚大神社の手前で逆サイフォンにより奈良井川を横断、対

岸の荒井に渡った水を北流し堰堤付近で合流させ水量を増加させました。昭和28年には奈良井川の改修により取水水位

置の変更が行われ、現在の高上地線鉄橋の南で取水するため頭首工が建設されました。この時、5門の水門を有する堰堤は撤去し取水口は残置(機能していない)され役目を終えました。また鎌田集水溝は周辺の市街化が進み湧水の減少や雑排水の流入等で排水路としての役割となり、勘左衛門堰土地改良区の所有ですが管理は松本市となり奈良井川横断の逆サイフォンは閉塞され河床残置のまま役目を終えました。

最近では県営かんがい排水事業勘左衛門堰地区(昭和54年~平成3年)により、取水口と頭首工を改修(平成3年3月竣工)、堰は上高地線下を推進工法で横断、その先は暗渠(箱形蓋函渠)で旧国道を横断し、かつての逆サイフォン出口付近で開渠となり現在の姿となりました。

今回の記事は勘左衛門土地改良区を訪問し理事長の竹内啓司さんに内容確認していただきました。御多忙の中ありがとうございました。

◎参考文献◎
目で見える沿革誌島内小学校の百年、東筑摩郡・松本市・塩尻市誌別篇人名、長野県歴史人物大辞典、奈良井川、松本平の灌漑と土地利用、安曇野水士記、維持管理計画書、勘左衛門堰地区竣工記念誌、昭和20年代荒井町のすがた

昔を振りかえる

前号の平成10年(1998年)に続き、10年後の平成20年(2008年)を「しまだち公民館報」を参考に振り返ります。

この年は、月見橋マレットゴルフ場西コースが平成18年7月の豪雨で流されてから1年5ヶ月ぶりの復旧を祝つての記念大会が開かれました。

また、島立小学校では、平成19年度に開校120周年を迎え、資料室に保管されていた彫刻家の上條俊介先生の「合唱の像」のレリーフが、朝夕、子どもたちの目に触れる昇降口西側に設置されました。



▶合唱の像

このレリーフは取り壊された旧体育館に掲げられていたものです。

公民館事業の芸術文化祭は37回を迎え公民館での作品展示と小学校体育館にて保育園児・小学生・中学生の作品展示をはじめ学生から一般成人にいたるまでのステージ発表がおこなわれていました。